

会 議 録

1 会議名

第3回浦川原区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 報告（公開）

ア 会長報告

- ・大浦安地域協議会会長懇談会について

イ 委員報告

- ・中学生との視察見学等について

ウ 市からの報告

- ・市民と市長との対話集会「キャッチボールトーク」の開催について
- ・浦川原区に係る平成29年度の地域活動支援事業の審査について
- ・霧ヶ岳温泉ゆあみのサウンディング型市場調査による再活用に向けての取組について

(2) 協議（公開）

ア 中学生との意見交換会で寄せられた意見の取扱いについて

イ 次回の開催日について

(3) その他（公開）

3 開催日時

平成29年6月23日（金）午後6時30分から午後7時20分まで

4 開催場所

浦川原里山地域活性化センター 多目的室

5 傍聴人の数

10人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員：池田幸博、市村一雄、杉田和久、西山康博、福井克利、藤田宏経会長、村松清、村松進副会長、和栗恵子副会長
- ・事務局：浦川原区総合事務所大坪所長、総務・地域振興グループ岩野グループ長、産業

グループ山崎グループ長、建設グループ小林グループ長、教育・文化グループ五井野グループ長、総務・地域振興グループ飯野班長、宮川班長、産業グループ柳澤班長

8 発言の内容

【藤田会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上が出席しているので、会議が成立する旨を報告
- ・出席者は9人。欠席委員は五十嵐委員、金子委員、前島委員
- ・会議録の確認：市村一雄委員

【藤田会長】

それでは、「2 報告」の「(1) 会長報告」をさせていただきます。

非公式ではあるが、6月22日（木）に浦川原コミュニティプラザの4階において大浦安の地域協議会の会長懇談会を開催した。内容については、大島区の会長の呼びかけにより大浦安の会長が一堂に会して大浦安の問題点についてフリートークを行った。

主なものは、大浦安の地域協議会委員の研修会の在り方について、それと、会長の懇談会の定例化についてと、新たに研修を行うことにより、お互いの知識を高めてきたが、その継続性についてどのような形が良いか、それぞれ大浦安での開催内容及び開催回数について討議させていただいた。

大浦安の地域協議会委員の方々の研修会については、輪番制でやっており、今回は大島区でお願いすることになっていて、内容についてどうするかという相談をいただいた。この内容について、開催は11月に予定している。市長選挙後に11月に開催して市長から講話をいただいて、いろいろトークをできるような形が良いのではということで大島区の会長から進めていただくことになった。

会長懇談会の定例化については、これは会長のみではなく、副会長も一緒に、正副会長といった形で大浦安の懇談会を行うということにした。これについては、具体的に事務局と協議をしながら進めていこうと考えている。

次に、視察等の研修会は大島区、安塚区は視察を行っており、浦川原区では今の委員になってからは行っていない。その代り、中学生との意見交換会を行っているとお話しさせていただいた。

これについて何かご意見はないか。よろしいか。

(会場内から「なし。」の声)

それでは、次に「(2) 委員報告」で村松進副会長より、「中学校との現地見学等について」報告いただく。

【村松進副会長】

平成28年11月19日に当時中学2年生と意見交換をして「ここが大好き！みんなで描こう浦川原」というテーマで中学生の皆さんから提案をいただいた。何度か中学校へ行き先生と協議してフィードバックしたいということで、5月23日に私と事務局で伺って、長教頭先生と担任の春日先生と話をしてきた。その後、6月15日に私と福井委員、西山委員、池田委員、岩野グループ長、飯野班長とで中学校へ伺った。中学校では時間を設けるので、フィードバックしてほしいということで、時間をいただいた中で進めていくといった形で調整、協議してきた。

今日、最終的な打ち合わせを行って、6月26日(月)の4限目、5限目をいただいた。講演をした後、生徒との意見交換会を午前11時45分から行うので、来週の月曜日に協議会の皆さんから中学校へ集まっていたきたいと思う。

次に、視察の件だが、7月11日(火)の5限目、6限目をいただいている。午後1時30分から4時30分の2時間で浦川原を5～6か所ほど回って、良いところ、悪いところを中学生から学んでもらい、将来的にここに残り住んでもらうということになればよいのではないかと感じる。マイクロバスを2台、事務局で借りていただいております、これも皆さんから参加していただきたい。

忙しい時期かと思われるが、29名の中学生がいて私たちの方でフィードバックして、「こういったこともある。」「あんなこともある。」というようにしていきたいので、皆さんにご協力をお願いしたい。

6月26日と7月11日に皆さんから足を運んでいただきたい。

【藤田会長】

中学生と昨年11月に3つのテーマに分かれて意見交換を行ったが、その中で6月26日(月)の午前11時45分からと7月の現地視察ということで、お願いしたい。これについて何か意見はないか。皆さんお出かけいただけるか。

【村松進副会長】

昨年、11月19日は各班に分かれていたが、今回は班に分かれずにやりたい。中学生から出た意見を聞き、例えば農業なら中学生は水稻しか考えていないということで、水稻だけではなく、水稻、畜産や園芸等もあるということで、そういったことを話した

がらその場所を回るということである。説明は我々実行委員の4名で行い、皆さんは地域協議会委員ということで来ていただきたいと思っている。できるだけ参加をお願いしたい。

【藤田会長】

これについては、よろしいか。ないようなので次に進める。

「(3) 市からの報告」で「① 市民と市長との対話集会『キャッチボールトーク』の開催について」岩野グループ長より説明いただく。

【総務・地域振興グループ岩野グループ長】

(資料1に沿って説明。)

【藤田会長】

ご案内ということで、傍聴されている皆様も是非、参加いただければと思う。次に「② 浦川原区に係る平成29年度の地域活動支援事業の審査について」宮川班長より説明いただく。

【総務・地域振興グループ宮川班長】

(資料2に沿って説明。)

例年2月に地域活動支援事業を活用して事業を実施した団体から活動内容を報告いただき、「地域活動支援事業報告会」を開催しており、委員の皆様からは採択した事業の評価や今後の事業の見通しなどの参考にしていただければと思う。

【藤田会長】

これについて、ご意見はないか。

(会場内から「なし。」の声)

次に、「霧ヶ岳温泉ゆあみのサウンディング型市場調査による再活用に向けての取組について」山崎グループ長より説明をいただく。

【産業グループ山崎グループ長】

霧ヶ岳温泉ゆあみに係る報告を2点ほどさせていただきます。

まず、うらがわらん・コシヒカリアイスについて、これは浦川原の数少ない地域の特産品であり、存続の要望も寄せられていることから、地元で唯一アイスの製造・販売を行っていて、なおかつ、うらがわらん・コシヒカリアイスの製造・販売を引き継ぐ意向の申し出のあったファーストファーム株式会社へ製造レシピを公開し、製造・販売を引き継いでいただくことで進めている。なお、製造機器については、耐用年数も経過しており、一部、修繕も必要な状況であるが、適正価格でファーストファーム株式会社へ有

償譲渡することとしている。ファーストファームでは製造機器の受け入れや、試運転、作業工程の確認、試作品づくりを経て、8月には販売を再開できるよう作業を進めているとお聞きしている。

続いて、霧ヶ岳温泉ゆあみの再利用に向けての市場調査について、市では昨年、「平成28年3月24付け 霧ヶ岳温泉ゆあみについての意見書」で回答したとおり、地域協議会からいただいた意見書の内容を踏まえ、財政貢献や政策の推進、地域への貢献などの視点から民間を含め幅広く活用の検討を行っている。しかし、施設の市場性の有無や公募の成立の可否について、市の内部だけでは判断が難しいことから、様々な可能性を調査、把握する必要があると考えている。

そこで、民間活力を最大限に活かした活用の可能性を検討するため、民間事業者と直接対話を通じて活用のノウハウ、アイデア等を調査する「対話型市場調査」を実施する。対話型市場調査とは市有地等の活用の検討にあたって、その活用方法について民間事業者から広く意見、提案を求め、対話を通して市場を把握する手法である。この調査によって、活用検討の早い段階で実施主体となる意向を有する民間事業者の意見を聞き取ることで、民間市場投入の可能性の幅が広がるとともに、民間事業者のノウハウを活かした実現性の高い公募条件の設定が可能となる。

調査の進め方は、7月に対話型市場調査について公表して、対話に参加する民間事業者の募集を行う。8月に申込みのあった民間事業者と対話を実施し、9月に調査結果の公表を行う予定である。その後、調査で把握した活用の可能性を踏まえて公募の条件等を検討していく。なお、民間利用の可能性が期待できない調査結果となった場合は、地域での活用を基本とした検討を地域協議会や町内会長連絡協議会の皆さんと相談しながら具体的に進めていきたいと考えている。

【藤田会長】

これについて、何かご意見はあるか。

(会場内から「なし」の声)

地域協議会として時間の関係もあり、全て細かく取り上げていくことは困難だと思われる。行政より報告をいただいたが、これについて協議する機会を改めて設けたいと思っているが、いかがか。よろしいか

(会場内から「はい。」の声)

委員の皆様から何かあるか。

【西山委員】

サウンディング型市場調査とは対話型市場調査という考え方でよいのか。

【大坪所長】

対話型ということで民間の事業者と直接話をして意見を聞きながら可能性を探るという方式である。近年、いくつかの公共施設を整理、再活用する際の手法ということで、上越市内では初めての取組になると思われる。

【藤田会長】

次に、「3 協議」で、「(1) 中学生との意見交換会で寄せられた意見の取扱いについて」だが、先ほど村松進副会長からも報告いただいたが、昨年12月から今年3月において地域協議会で出た意見等の整理、協議をしていく中で、今後の地域協議会としての方向性や審議の内容を確認させていただくために、自主的審議事項の案件とする課題、若しくはテーマを絞り込んで次のステップにつなげたいと考えている。

(資料3に沿って説明。)

これについてご意見をいただきたい。

ほくほく線の車両内のトイレについては、他の機関でアンケートを取っても大変不自由しているという意見もあると聞いている。

【池田委員】

私はこの中学生との意見交換会の4人の実行委員の中の一人であり、私が感じたことは、前期の地域協議会が始めて実施して今回で4年目ということであり、最初は暗中模索ということでいろいろやってきたが、ここ1、2年での様子や中学生、学校側の反応を見るとかなり形になってきたと思われる。あと、1、2回もするとフィードバックもほぼベストな形に持っていけるのではないかと感じている。今回、来週や7月11日にも予定されているが、実行委員でない委員も是非、一緒になってやっていただきたいと思う。

最初は中学生との意見交換会という話が出たときは、中学生とそんなことをやっても意義があるのかと感じた。そう思った委員もたくさんいた。しかし、実際にやってみると中学2年生は思っているよりはるかに大人で、逆に私たちが勉強、考えさせられるような点が多々あると改めて気づいた。繰り返しになるが、そうやって進めてきて形になってきたと感じている。

【藤田会長】

他に何かないか。

【福井委員】

浦川原と交通網では、ほくほく線のトイレの件と国道253号線の信号の件の2つをクローズアップされたが、中学生への返答は具体的に、「いつまでに、どこと連携し、どうする」ということはまだ決まっていないと思うが、どういった見込になっているのか。

【藤田会長】

自主的審議といった形にさせていただき、関係機関へ意見書を出すという形で審議いただければと思う。皆さんから賛成いただければ、もう少し突き詰めていきたいと思っている。それも合わせてご意見をいただきたいと思う。他からの資料もそれなりに集めて、アンケートを取っていて、学校へも他の民間の機関紙等も提出している。自主的審議に皆さんから賛成していただきたいと思っている。他の機関で審議された中で、私が原稿を依頼されたものがあり、この機関誌を学校へお送りさせていただいている。

(機関誌を音読し紹介。)

この信号とトイレの件は、自主的審議としていきたいと思っているがいかがか。

(会場内から「異議なし。」の声)

では、次回から自主的審議として、審議していくということで了解いただきたい。次に、「(2) 次回の開催について」だが、次の会場は月影地区で開催したいと思っている。7月27日(木)午後6時30分から月影の郷で、次第では図工室となっているが、食堂でお願いしたいと思っている。よろしくお願ひしたい。

次に「4 その他」でなにかないか。よろしいか。

これで第3回浦川原区地域協議会を閉じる。

9 問合せ先

浦川原区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 025-599-2301 (内線 305)

E-mail : uragawara-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。